

一人ひとりの児童、生徒、学生の人生の成功と正常に機能する社会の形成のために
- 経済同友会からの派遣講師として出張授業で訴え続けていること -

開倫塾
林 明夫

1. はじめに

- (1) 「教育改革」は「社会総がかり」で行わない限り成し遂げられない。
- (2) 経済同友会は自己責任、経済人が個人の資格で参加している団体であるから学校に対しての協力がしやすい。(経費ゼロ)
- (3) 栃木県経済同友会の会員として白鷗大学、佐野短期大学、宇都宮大学へ、東京の経済同友会の会員として中学校、高校、教育委員会へ派遣されている。(40回)
栃木県経済同友会からの要請で公立学校現職教員の社会体験研修の受け入れ(2009年度は3か月を3名)と公立学校教員採用試験面接官も。
- (4) 「社会との調和」を経営の基本理念としている当社では、これらの活動を「企業としての社会貢献活動」の一つ、企業としての社会的責任(CSR)を果たすために行っている。

2. 学校へ出張授業に際し気をつけていること

<授業日前>

- (1) 学校からの要望・希望事項を最大限重視、できるだけテーマや質問項目に沿った内容に徹する。
- (2) 学校からの資料にはすべて目を通す(ホームページも必ず参照する)
教育目標、設立理念、特徴を理解する。
- (3) 授業の設計をレッスン・プランの形でまとめる。
- (4) レジユメ(授業内容資料)を執筆する。
授業当日朝まで改正し続ける。

(5)授業内容を頭に入れる。

<授業日>何回か予行練習 - 模擬授業 - をする

(6)集合時間少し前に到着できるよう計画をたてる。時間通りに到着するのが難しそうな学校は、1時間前くらいまでに到着し、学校の近くの cafe(カフェ)などで待機し、集合時間寸前に学校に行く。

(7)学校に到着したら、校長・副校長・出張授業担当者と必ず面談し、学校側の希望・話してもらいたいことを質問する。学校の教育理念、目標、一番力を入れていること、困っていることなども質問する。クラス担任と面談ができる場合にも、力を入れたいことや困っていることをお聞きする。

(8)出迎えに来た生徒代表から学校やクラスの特徴を聞く。どんなことに皆が興味をもっているかを聞き取る。

(9)授業は時間通り始め、時間通り終了するよう努める。

(10)私の場合、レジュメを全員に配付し、レジュメに沿って、レジュメを説明する形で授業をすすめる。(メモを取らなくてもよいようレジュメを用意する)

(11)授業中はできるだけ生徒の反応を見ながら、また、質問があれば答えるようにしながら授業をすすめる。どんどん発言させたり、質問もさせる。

(12)授業終了直前に、できるだけ多くの生徒から感想、コメントや質問、意見を求める。

(13)授業終了後、校長やクラス担任、出張授業担当者に感想や改善点を申し述べる。

<授業日後>

(14)学校から感想文が後日届いたら、質問には文書で答える。

(15)レジュメはできるだけホームページ(個人用)に入れ、いろいろな人に活用して頂いている。(オープン・コース・ウェア OCW として)

3. おわりに

(1)テーマとして中学生、高校生、大学生、大学院生、教員、保護者、教育委員会等の関心を示して頂いているもの。

現代社会とはどのような社会か。

これからの社会はどのような社会になるのか。

現代社会、これからの社会で求められる能力とは何か。

どのようにその能力を身につけたらよいのか。

今やっている勉強は果たして役に立つのか。

以上を、自分の経験を通して、自分のことばで、自分の考えとして示してほしい。

(2)出張授業は「武者修行」(「一期一会」の)

こちらにとっても「一期一会の武者修行」。生徒・学生たちにとっても「一期一会の武者修行」。素晴らしい一生に一度の出会いの場。真剣に、また、大切にしたい。

講師としての社会的使命を自覚した上で、自然体、自分なりの方法で行うことが「三方よし」(生徒にも、学校にも、講師にもよし)となり、長続きするプログラムとなる。

絶えざる反省、振り返り(リフレクション)も大事。前回よりは今回、今回よりは次回、少しでもよい授業をしようと「改善」を積み重ねることも大切。

(3)すべては一人ひとりの「成功の実現」と「正常に機能する社会」(持続可能な社会)の構築のため。

がんばりましょう。

感謝

—2009年9月13日記—